

# 第23回例会報告

## — 講演 —

### 墨田区という地域に根ざしているからこそできる 「都市型の町工場」「地産地消型ものづくり」の考え方

第23回例会では、『墨田区という地域に根ざしているからこそできる「都市型の町工場」「地産地消型ものづくり」の考え方』をテーマに、株式会社浜野製作所 代表取締役CEOの浜野 慶一氏にお話をいただきました。

#### 講演内容

私どもは東京都墨田区で金属の部品加工をしている小さな町工場です。東京の町工場という有名なのは大田区ですが、墨田区は大田区に次いで2番目に町工場が多い地域です。高度経済成長時の最盛期には、1万社程度の町工場がいましたが、現在は2,800社にまで減っています。

弊社は1978年に設立し、1993年に創業者である父が他界した後、私が会社を継ぎました。就任当初は母親とともに仕事をしていましたが、その母も2年後他界しました。そして2000年6月、父と母に託された大事な工場がもらい火によって全焼するという大事件が起きます。

弊社の経営理念「おもてなしの心を常に持って、お客さま・スタッフ・地域に感謝・還元する」は、この最も苦しかった火事の経験を元に、2003年にでき上がりました。会社が明日潰れてもおかしくないという一番大変な時に、地域の方々やお客さまに、本当に親切によくいただきました。たった一人の従業員は、給料が払えない状況になってもそばで支えてくれました。常日頃からお客さま・スタッフ・地域への感謝の気持ちを忘れず、還元できるような会社になろう……これがお世話になった方々への最大のご恩返しであり、浜野製作所が目指すべき会社の姿であり、経営者の責務だと思っています。



墨田区は人件費も土地代も高く、環境としてはものづくりに適していない地域と言えます。量産加工の拠点はどんどん地方や海外へと移っていき、東京の町工場は同じことをやっても到底勝ち目はありません。だとすれば、この地域のメリットを活かして、別のステージで勝負をするしかないと考えました。具体的には「ものづくりの情報の上流で仕事をする」「下請け体質からの脱却」「ネットワークを活用したビジネス展開」という3つのテーマをもって経営を進めています。

下請けは誇り高い、自信をもってすべき仕事だと私は思っていますが、下請け「体質」からは脱却する必要があります。2009年の産官学連携の電気自動車「HOKUSAI」プロジェクトや、深海探査艇「江戸っ子1号」プロジェクトに参加したのも、そのような気持ちからでした。技術は素晴らしいものをもっている町工場の技術力を結集し、ものづくりのもう一段階前の開発からコミットする、さまざまな人と関わり合いながらシンボリックな完成体を作り上げることは、素晴らしい社員教育にもつながりました。

弊社が運営しているものづくりの総合支援施設「Garage Sumida」も、こういった「都市型の町工場」を意識したものです。優秀な学生や世界的なクリエイターのものづくりサポート、ベンチャー企業のスタートアップ支援、さまざまな大学との連携など、人材が集まる東京という地の利があるからこそできることです。

小さな町工場は増えることはなく減る一方ですが、「良い技術は次世代へとつなげていきたい、そのために町工場のあり方や仕組みを変えるための“ハブ”になりたい」と思っています。ものづくりを通して世の中の困りごとや社会の課題を解決できるような町工場を目指すこと、ここに我々の存在意義があるはずです。

#### 浜野 慶一 氏 【株式会社浜野製作所 代表取締役CEO】

1962年東京都墨田区生まれ、1985年東海大学政治経済学部経営学科卒業、同年都内板橋区の精密板金加工メーカーに就職。1993年創業者・浜野嘉彦氏の死去に伴い、(株)浜野製作所 代表取締役に就任、現在に至る。「おもてなしの心」を経営理念とし、さらに「製造業はサービス業である」をモットーに、レーザー加工・金型・精密板金・プレス加工を手がける。墨田区「フレッシュゆめ工場」「すみだがげんきになるものづくり企業大賞」などさまざまな賞を受賞。

講師  
プロフィール  
Lecturer Profile